

評議員 小坂藤松氏 を偲んで

平成5年2月4日逝去（81歳）

紺綬褒章：平成元年10月28日

勳六等単光旭日章：逝去時

先頃恐竜の化石が出て話題を賑わせている大白川ダムのあるところ、富山県境に近い岐阜県大野郡白川村、名古屋からは郡上八幡、蛭ヶ野高原を越えて、合掌造りの家が点在する萩^(オガ)町（保存地区）の手前に、小坂藤松氏（小坂建設株式会社代表取締役会長）の屋敷があります。旧家の小坂旅館は本家であり、現在繁盛をきわめている「ふじや旅館」のおかみは氏の令妹にあたります。

かつて、平家の落人達に移り住んだと云われる春なお残雪豊かな飛驒の神秘的で詩情豊かな地は氏が生まれ育ち、そして生涯にわたる活躍の本拠地でありました。ほとんど兵役にかりだされた時を除いて故郷を離れたことはなかったと聞いています。

長年家業の山林治水の事業を通して近郊の人達の暮らしを支え、育英資金を設けて教育に手をさしのべ、村の医療施設の整備を始め、村の施政に心をくわいてこられました。限りなく郷土を愛し、郷土を守っていらっしゃいました。数々の善行を積み上げていらしても謙虚で、大丈夫の頼もしきとおおらかさがあって、暖かな優しさの伝わるお人柄でした。晩年の数年間はお体のご不自由でお話もままならぬ臥床の毎日でしたから、お元気だったころの豪快な笑い声を聞くことはありませんでしたが、たまにお訪ねして「社長さん」とお声をかけると号泣して応えられました。言葉を発することの出来ないもどかしさを全身に表して、握手を求めると健康な方の手で痛いほど強く握り返して下さいました。逗子にて訃報を聞き、最後のお別れはできませんでしたが、そのためかまだ近くにいらっしゃるように思うことがあります。

遅れましたが、私どもの財団にも創設当初から沢山ご援助いただきました。衷心より御礼を申し上げます。想起こせば昭和39年名古屋大学にきたときからお世話になり、今日まで変わらぬご親交をいただきました。感謝の気持ちの表しようもないほど沢山の恩恵を受けました。重ねて深甚なる謝意をささげ、御霊の安らかでありますよう祈り上げ、お別れのことばといたします。合掌。

（健康文化振興財団理事長 林文子）